

質問9 臨床研究者の支援について

(該当箇所:p.54 第2号議案 平成27年度事業報告>学術部>学術委員会、他)

大学院レベルの教育を受けたOTが、臨床家として活躍していますが、研究活動を続けていない人も多いと感じます。作業療法の知見を積み重ねることは必要で、大学院教育を受けたOTが、臨床家と研究者の橋渡しができるようになったらいいと思います。しかし現状、研究活動を続けていない者は多いと思います。正直、修士レベルでは独り立ちできる研究者とは言いがたく、誰かと研究を進めていくレベルです。また、進学に関心はあるものの家庭の都合で進学できない人も多いです。そのような人が、研究活動に取り組むためにリサーチクエストを話し合ったり、研究計画をブラッシュアップするための場の提供など、後方支援を協会は何か考えていますか？

回答

臨床家の研究活動の支援についてご質問いただき、ありがとうございます。協会は臨床家の研究活動を非常に重要と考えており、学会の開催や学術誌の発行など、研究成果を報告する機会を提供し、課題研究助成制度では作業療法の成果に関わる研究に資金援助を行っています。また、学術誌に投稿された論文の査読や、事例報告の審査、課題研究助成制度の研究計画の審査にあたっては、投稿者や応募者に対する教育的指導にも心がけているところです。

リサーチクエストについては、現在、学術部が脳卒中、脳性麻痺、統合失調症、認知症等の疾患別ガイドラインを作成しており、その中で疾患別にリサーチクエストを立てて、これまでの研究成果をレビューしています。脳性麻痺のガイドラインは既にパブリックコメントを求めるために公開しています。その他の疾患も、準備ができ次第、順次ホームページに公開しますので、内容をご確認いただき、今後の研究活動にお役立てください。

会員の研究活動の支援については、協会ですることには限界があります。一方、現在では、多くの大学院が臨床家の研究指導を始めています。臨床研究を充実させるには大学院を利用し、あるいは研究生という制度を利用するなどして、臨床家と研究者が連携することが最も重要と考えています。